

障害者等のデジタル活用を支援する人材の育成と活躍の場づくり  
デジタルアクセシビリティアドバイザー検討委員会 報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

一般社団法人日本支援技術協会  
デジタルアクセシビリティアドバイザー検討委員会

## 目次

1	デジタルアクセシビリティアドバイザー検討委員会について	3
2	検討委員	3
3	検討委員会開催実績	4
4	活動実績	5
(ア)	調査研究会	5
(イ)	学習教材の拡充と認定試験の CBT 化	7
(ウ)	アクセシブルな試験システムの構築	10
(エ)	DAA フォーラム 2024(AAICT 研究大会)	10
5	広報関連	11
6	受験者へのアンケート調査	12
(ア)	受験者数と合格者数	12
(イ)	受験者層	12
(ウ)	受験の動機	13
(エ)	受験前は知らなかったこと	13
(オ)	試験前後でデジタルアクセシビリティの理解はどう変わったか(自由記述)	13
(カ)	資格はどのように活用するか(自由記述)	15
7	総括	16

※ 注意:2023 年 9 月 20 日以降、  
「ICT アクセシビリティアドバイザー(略称:AAICT)」を  
「デジタルアクセシビリティアドバイザー(略称:DAA)」に呼称変更することとした。

## 1 デジタルアクセシビリティアドバイザー検討委員会について

日本財団から助成を受けた「障害者等のデジタル活用を支援する人材の育成と活躍の場づくり」事業を実施するにあたり、教育分野、医療分野、工学分野、福祉分野においてデジタルアクセシビリティについての知見を持ち、研究だけでなくそれぞれの分野で障害当事者と相対して実績を積み重ねてきた専門家で検討委員会(以下、委員会)を構成した。

委員会では、困りのある人のデジタル活用に向けて人材の地域社会での位置付けと育成をおこなうための調査研究会を企画し、その調査結果に基づいて事業のポイントを整理した。さらに各活動においてもそれらのポイントと照らして進捗を確認しつつ助言をおこなった。本書では、委員会の助言に基づいて実施した各活動について報告する。

## 2 検討委員

- 委員長
  - 金森 克浩(帝京大学 教育学部教授)
- 委員
  - 教育分野
    - ◇ 新谷 洋介(金沢星稜大学 人間科学部教授)
    - ◇ 小川 修史(兵庫教育大学 教育学部准教授)
  - 工学分野
    - ◇ 清田 公保(熊本高等専門学校 教授)
    - ◇ 福島 勇(熊本高等専門学校 特命教授)
  - 医療分野
    - ◇ 田中 勇次郎(東京都作業療法士会 会長)
    - ◇ 中園 正吾(関西学研医療福祉学院 作業療法学科 講師)
  - 福祉分野
    - ◇ 堀込 真理子(東京都 IT サポートセンター 所長)
- 事務局
  - 小野 雄次郎(日本支援技術協会 代表理事)
  - 田代 洋章(日本支援技術協会 理事)
  - 川村 尚人(日本支援技術協会 事務局)
  - 山野井 究(日本支援技術協会 広報)

### 3 検討委員会開催実績

日付	場所
4/17 13:30～	かつしかシンフォニーヒルズ 会議室
5/21 10:00～	TKP 東京駅カンファレンスセンター
6/24 13:30～	TKP 品川港南口会議室
7/23 10:00～	TKP 品川カンファレンスセンター会議室
8/30 13:30～	かつしかシンフォニーヒルズ会議室
9/23 10:00～	TKP 品川カンファレンスセンター会議室
10/28 10:00～	TKP 品川カンファレンスセンター会議室
11/19 10:00～	オンライン
12/23 10:00～	立石みんなみんな会議室
1/16 13:00～	オンライン
2/3 10:00～	オリンピック記念青少年総合センター会議室
3/11 10:00～	かつしかシンフォニーヒルズ会議室

## 4 活動実績

### (ア)調査研究の企画と事業ポイントの検討

困りのある人のデジタル活用に向けて人材の地域社会での位置付けと育成計画を策定するために調査研究会「インクルーシブ社会実現と ICT 利活用についての調査研究」を企画し、国内外におけるデジタルアクセシビリティの実情について各方面の専門家に講演いただいた。調査研究会を受けて事業ポイントの洗い出しをおこなった。

- 日時:2023年4月17日(月)10:00~12:30
- 場所:かつしかシンフォニーヒルズ 別館(東京都葛飾区立石六丁目33番1号)  
リアルタイムオンライン配信実施
- 講演内容:
  - ICT アクセシビリティアドバイザー認定制度の紹介  
(日本支援技術協会 事務局長/田代 洋章)
  - 誰一人取り残されない人に優しいデジタル社会の実現  
(デジタル庁 審議官/犬童周作)
  - 欧米の情報通信アクセシビリティ政策－歴史を振り返る－  
(東洋大学 名誉教授/山田肇)
  - デジタルデバイドを作らない取り組み  
(IT エバンジェリスト 若宮正子)
  - デジタルアクセシビリティ人材育成への期待  
(株式会社ユーディット 会長/関根千佳)

本調査研究会の結果、国内のデジタルアクセシビリティの動向と課題、海外での取り組みと参考にすべきシステム、家庭と地域における支援の実情について、貴重な知見が得られ、検討委員会からは以下のポイントが指摘された。

- ICF に基づく障害観を普及させること
- あらゆる場面でユニバーサルな発想でのサービス構築が重要であると学べること
- 気軽にデジタルアクセシビリティを学ぶ機会を提供すること
- 家庭においては家族がサポートするよりも他人の介入のほうが効果的であるので、スキルは薄くてもいいから広い地域や分野での人材育成が重要である

これらのポイントを各事業「学習教材の拡充と認定試験の CBT 化」「アクセシブルな試験システムの構築」「DAA(AAICT)研究大会」に活かすこととした。

また、国際的な通念に合わせて「ICT アクセシビリティ」から「デジタルアクセシビリティ」に用語を変更し、認定制度も 9/20 以降「ICT アクセシビリティアドバイザー(AAICT)」から「デジタルアクセシビリティアドバイザー(DAA)」に呼称変更することとした。

- ビデオアーカイブ:

- Web サイトにアーカイブを 5/10 に公開

### インクルーシブ社会実現とICT利活用についての調査研究

2023年5月10日 h.tashiro

この調査研究会は、日本財団から当協会が助成をうけた「障害者等のデジタル活用を支援する人材の育成と活躍の場づくり」の活動の一環として開催されました。  
2023年度からはICTアクセシビリティアドバイザー（略称：AAICT）を地域に位置付けてインクルーシブな社会実現に貢献するために更なる活動を行いたいと考えております。  
そこで、あらためて法整備や社会構造、教育上の課題を洗い出し、困りのある人のデジタル活用に向けて人材をどのように地域社会に位置付けて継続して育成していくのかの方針を立てるための調査研究会を実施いたしました。  
本来は当協会のAAICT認定委員会向けの研究会なのですが、著名な先生方のご講演であり貴重な学びの機会でしたので、AAICTとして認定された皆様にもご聴講いただけるようにし、デジタルデバッドに関わる社会課題や人材育成について情報を共有したいと思います。

※このページで共有する資料およびビデオを複製して一般公開することを禁じます。

【日時】 2023年4月17日（月） 10:00～12:30  
【場所】 かつしかシンフォニーヒルズ 別館（東京都葛飾区立石六丁目33番1号）（オンライン聴講も実施しました）  
【主な演題】（敬称・役職略）

- ICTアクセシビリティアドバイザー認定制度の紹介：日本支援技術協会 事務局長/田代洋章





• スライド資料はこちら

<https://daa.ne.jp/event/archives/1433>

## (イ) 学習教材の拡充と認定試験の CBT 化

### ① 公式テキストの制作

デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験の公式の受験対策書籍であるが、自身のスキルを磨いたり、これまで蓄積してきた自身のスキルを整理したりするだけでなく、身近なデジタル機器を題材にしたり、一般社会で話題になっているテクノロジーにも触れたりして、目の前にいる人に多様なデジタルサービスをコーディネートする現場での提案や対策に役立てることを重要なポイントとして内容を構成した。

<p>Basicレベル編:9/9 校了 (9/27 発刊)</p>  <p>Basicレベル編 第三巻</p> <p>デジタル アクセシビリティ アドバイザー 認定試験 公式テキスト</p> <p>Digital Accessibility Advisor</p> <p>編集・発行：一般社団法人 日本支援技術協会</p>	<p>Standardレベル編:9/9 校了 (9/27 発刊)</p>  <p>Standardレベル編 第三巻</p> <p>デジタル アクセシビリティ アドバイザー 認定試験 公式テキスト</p> <p>Digital Accessibility Advisor</p> <p>編集・発行：一般社団法人 日本支援技術協会</p>
<p>概要:</p> <p>Basicレベル編では、障害を理解し自分事として捉え、社会を見つめ、テクノロジーを知り、デジタルアクセシビリティについての基礎的な事柄を学べる。</p> <p>大切な人や目の前で困っている人に、必要な支援をアドバイスし、それらをコーディネートして提供するスキルを身につけるための学びとした。</p>	<p>概要:</p> <p>Standardレベル編では、教育や医療や福祉の現場で業務としてさまざまな障害のある人にデジタル製品等をコーディネートしサポートするためのスキルを学習する。</p> <p>困難別の支援技術、環境と衛生、情報アクセシビリティ、作業療法士による支援技術の実例を掲載。</p>

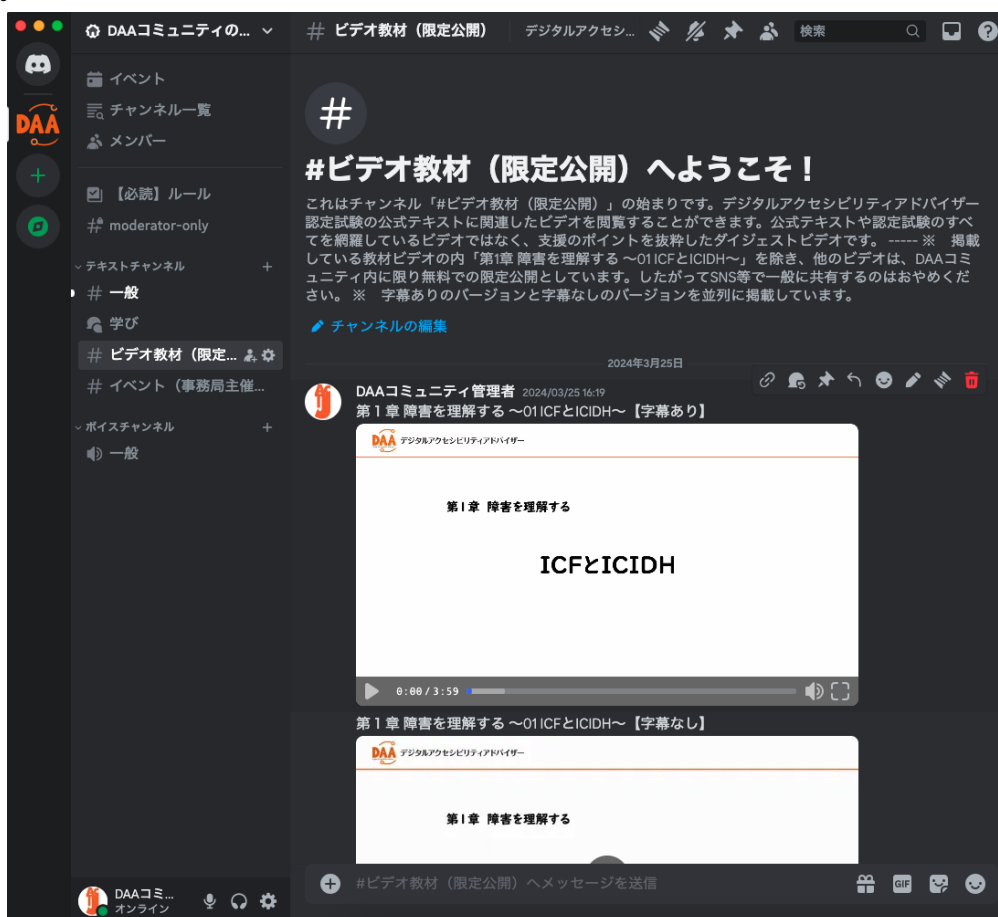
### ② 教材ビデオの制作

公式テキスト Basicレベル編の12本のビデオは、気軽に集中して視聴できる長さを4分程度とし、重要なポイントに絞ったダイジェスト的な構成とした。また、それぞれのビデオには情報保障に配慮し、字幕あり版と字幕なし版を準備して公開した。

01:ICF と ICIDH	07:コントラストと拡大・縮小
02:法律と合理的配慮	08:スクリーンリーダーと読み上げ☒
03:IoT とデジタル家電	09:音声コントロールと音声入力
04:福祉機器としての電子支援技術製品	10:外部スイッチによる操作
05:Society5.0 と共生社会	11:マウスの代替
06:ユニバーサルデザイン	12:タッチ操作の補助

(全 12 本の公開完了 2024 年 2 月 28 日)

公開の場所は、Discord アプリを利用して制作した参加無料の Web コミュニティとした。



このコミュニティは、DAA 認定制度に関心があり、家庭や地域や職場でそのスキルを活かして活動しようとする人なら誰でも参加できることとし、学びのため教材情報や研修会情報やメンバー同士の情報共有が可能となっている。以下の URL からコミュニティに参加申し込みができる仕様とした。

<https://daa.ne.jp/community>



### ③ 認定試験の CBT 化

株式会社オデッセイコミュニケーションズと業務提携し、同社が運営する CBT のシステムに合わせて、Basic レベルと Standard レベルそれぞれに複数の問題セットを作問し、動作検証と難易度調整等をおこなった。



2023 年 11 月 20 日から全国約 300 か所あるオデッセイコミュニケーションズの契約テストセンターから、受験者の都合の良い場所と日時を選んで受験できるようになり、受験機会を飛躍的に拡大することができた。(2022 年は 7 箇所です)年 1 回の実施)

odyssey CBT オデッセイコミュニケーションズのテストサービス お問い合わせ Google 検索

CBT試験とは 試験一覧 試験会場を探す Odyssey ID登録 ログイン

トップ > デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験 (Digital Accessibility Advisor)

### デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験 (Digital Accessibility Advisor)

デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験 (Digital Accessibility Advisor : DAA) は、障害がある方や高齢者の ICT 機器の利活用をサポートするために必要な障害の理解・技術の理解・アクセシビリティの理解に関する基礎的な知識、困り別や生活場面別の適合技術などの応用的な知識・技術を評価します。DAA は、一般社団法人日本支援技術協会が認定する試験です。

- ▶ デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験 ※ 公式サイト
- ▶ 一般社団法人 日本支援技術協会

※ ICT アクセシビリティアドバイザー認定試験は、CBT での配信開始に伴い「デジタルアクセシビリティアドバイザー認定試験」と名称を変更しました。

よくあるご質問

- ・ 試験は、いつ・どこで受験できますか？
- ・ Odyssey ID の登録手順を教えてください。
- ・ パスワードを忘れました。

試験会場を探す

Basicレベル ▶ 詳しく見る

Standardレベル ▶ 詳しく見る

オデッセイコミュニケーションズ CBT サイトから転載

<https://cbt.odyssey-com.co.jp/daa/index.html>

## (ウ)アクセシブルな試験システムの構築

株式会社オデッセイコミュニケーションズの開発に協力し 2023 年度中は以下のような活動をおこなった。2024 年度も引き続き開発と技術検証をおこなう予定。

本 DAA 認定試験をアクセシブルなシステムとすることによって、他の試験においてもアクセシブルなシステムに改変する先例とすることができる。このことは、他社や学校等の CBT 試験における合理的配慮の好事例となると思われる。

### ① 活動内容

- 試験システム仕様検討
- 当事者へのヒアリング
- 追加機能の整理

### ② システムの仕様

- 試験システムでは、システム独自のキーボードによるショートカットキーで、問題文の読み上げや音声再生に伴う各種コントロールを割り付ける。
- 解答選択肢を選ぶ操作は、ブラウザ操作をおこなうキーボードナビゲーションやショートカットキーに準拠した動作とする予定。



## (エ) DAA フォーラム 2024(AAICT 研究大会)

デジタルアクセシビリティアドバイザー(DAA)活動報告会として開催。基調講演を聴講し、DAA 認定者の活動について情報共有することで、参加者のデジタルアクセシビリティへの意識の高まりを促すことが目的であった。また、このことにより障害のある人のデジタル活用を促進する人材育成につながると考えた。

開催した結果、DAA 認定者のデジタルアクセシビリティに対する意識が変化して、障害者のデジタル活用を支援できる人材となっている様子をうかがい知ることができた。

詳しくは、「DAA フォーラム 2024 報告書」参照

## 5 広報関連

4/19	DAA 紹介パンフレット(A4)およびパネルを制作
4/19	展示会・研修会での紹介:バリアフリー2023
8/19	研修会での紹介:夏合宿 2023
9/20	プレスリリース:DAA リニューアルと公式テキストリリース
9/20	公式 Web サイトオープン: <a href="https://daa.ne.jp">https://daa.ne.jp</a>
9/21	広報ビデオ①リリース:DAA への誘い
9/27	展示会での紹介:国際福祉機器展 2023
9/27	プレスリリース:DAA 認定試験でオデッセイコミュニケーションズと提携
10/21	研修会での紹介:パソコンボランティア講座(日本障害者リハビリテーション協会)
11/20	プレスリリース:DAA 認定試験受付開始
12/16	広報ビデオ②リリース:DAA STORY #1
12/16	研修会での紹介:ATAC カンファレンス 2023
12/20	Web コミュニティオープン(Discord):教材ビデオ掲載スタート
1/20	展示会・研修会での紹介:徳島バリアフリー BOX <sup>∞</sup>
2/3	研修会での紹介:DAA フォーラム 2024
2/24	研修会での紹介:ICT を活用して読書の可能性を広げるシンポジウム
3/8	研修会での紹介:CEF2024(質の高い障害者雇用を考える会議)

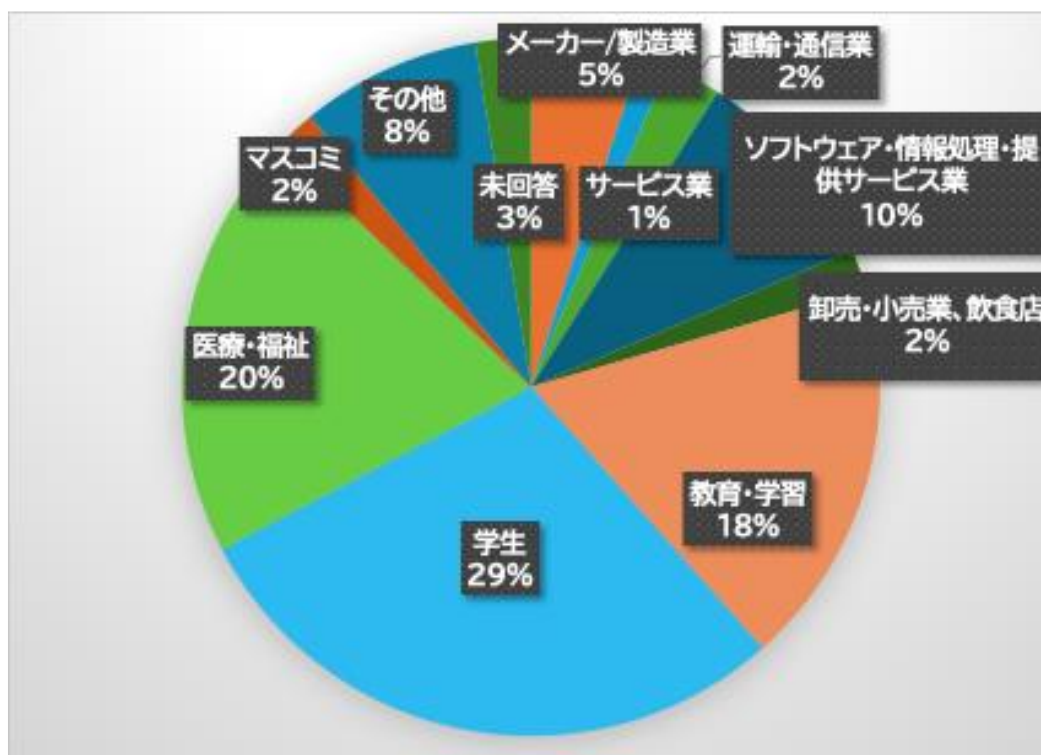
## 6 受験者へのアンケート調査

- 受験直後に可否に関係なくアンケートを実施
- 2023年11月20日～2024年2月29日(本報告書データ)

### (ア) 受験者数と合格者数

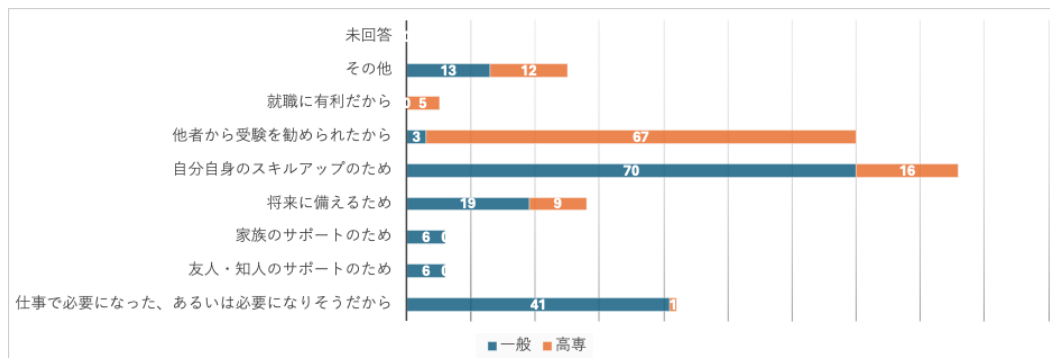
受験状況		合計	一般	高専	
全体	Basic レベル	受験者数	155	72	39
		合格者数	84	40	27
		合格率	54.2%	55.6%	69.2%
	Standard レベル	受験者数	39	39	
		合格者数	31	31	
		合格率	79.5%	79.5%	

### (イ) 受験者層



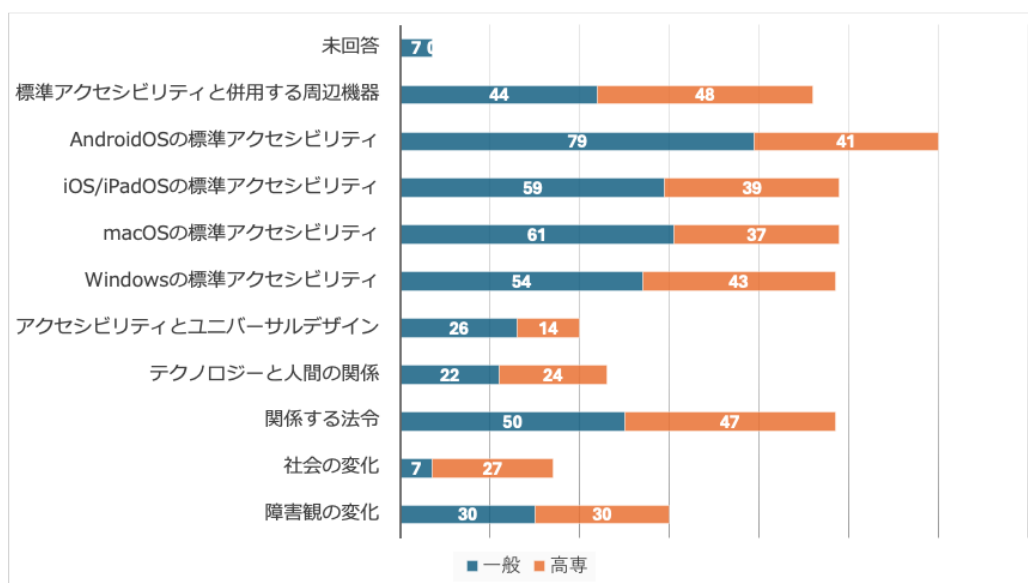
## (ウ) 受験の動機

(複数回答有り)



## (エ) 受験前は知らなかったこと

(複数回答有り)



## (オ) 試験前後でデジタルアクセシビリティの理解はどう変わったか(自由記述)

### ① Basicレベル受験者

障害についての理解の仕方が変わったこと、普段使っているスマホの中に標準でアクセシビリティ機能が含まれていて支援に使えるのだと知ったことなどの感想が多かった。(5つのみ抜粋)

- デジタルアクセシビリティについて、より興味がわき、もっと深く勉強したいと考えるようになった。また、日常で何かデジタルアクセシビリティに困っている方がいればサポートしたいと思うきっかけになった。

- 身近に使える機能がこんなにあるとは思わなかったので、使わないのはもったいないと思いました。これらの機能を知ることで、多くの方の就業などの支援などできたらよいと思いました。
- テキストに記載されているアクセシビリティ機能について調べているうちに、必ずしも障がい者や高齢者だけでなく、すべての人にとって使いやすくなる機能もあり、アクセシビリティは万人のものであることがわかりました。
- 社会モデルとして障害を捉えなおすことで、自分の仕事でこの世からいくらかの障害そのものをなくすることができるかもしれないと思いついた。
- 社会モデルの理解が進み、障害との向き合い方について価値観が大きく変わった。引き続き勉強して支援者として貢献していきたい。

## ② Standardレベル受験者

福祉系など既に障害のある人の支援に関わっている人が多く受験されている。障害観に対する認識を新たにしたり具体的な製品やサービスについて学び直しをしたい旨の回答が多かった。(5つのみ抜粋)

- 障害観に関する世界の動向と関係する法令に関する知識、ユニバーサルデザインやアクセシビリティに関する考え方、各障害に関わる支援技術と支援の具体例をよく理解することができました。支援技術についてはニーズに合わせた高度な専門知識が求められることもよくわかりました。高齢化の進む我が国において、共生社会を実現するためにも今後ますます求められる分野であることを痛切に感じました。
- 社会背景、現状や今後の動向を受け、デジタルアクセシビリティの知識がなぜ必要なのか、そしてやりたいこと、あるいは困難さに対して、具体的な支援技術や支援機器の種類が多くあることがわかりました。また、障害のある方だけではなく、誰もが当たり前に行いたいことを実現できるよう、使いやすく便利で安心して快適に暮らせるツールとして役に立つことがわかりました。これからの社会には欠かせない知識だと思いました。
- 最新の支援技術に対する知識が不足していることに実感させられたので、実際の製品や機能をと試す機会を増やそうと思った。
- 障害に対するとらえ方が変わり、その人らしい生活をするためにはどのような ICT を活用することがよいのかを考えるようになりました。そのための、選択肢がいくつかあることをこのデジタルアクセシビリティの勉強をしていく中で理解してきました。
- いままで自身の必要とする範囲の部分しか理解していなかったこと。支援に対して、多角的に臨んでいたつもりではありましたが、それも知識の一部のみを使ってしか取り組んでいなかったと気づかされました。今現在も技術は進歩し続けているので、これからも学びを続けながら取り組みたいと思います。

※この設問へのすべての回答は Web サイトに「受験者の声」として掲載

[https://daa.ne.jp/examinee\\_voice](https://daa.ne.jp/examinee_voice)

## (カ)資格はどのように活用するか(自由記述)

### ③ Basicレベル受験者

自己啓発と考えている方、将来に備えたい方、自身の職業や活動に活かすと答えた方が多かった。(5つのみ抜粋)

- 将来、体が不自由な人など障害を持っている人がパソコンなどの ICT 機器を使いたい時アドバイスしてあげたい。
- 試験会場で実際に障害のある方が受験をする際や、行政書士活動で必要とされる機会があるときなどに活用したいと思っている。あとは、家族や知人へのサポートができるとういと思う。
- 特別支援学校教員として、日々の業務に役立てたい。
- 障害者向けのパソコンボランティアをやっているので、そのような場面での活用や、社内の障害者雇用の人に対しても何か便利な機能があればサポートできたらいいなと思っている
- 病院勤務で、重度の心身障害者の方への支援提供で主に活用していきたいと思っています。神経難病などの重度の患者様に接している医療職は馴染みのある資格なのかと思いますが、一般病院ではあまり知られていないように思います。この素晴らしい知識が広がるような活動もしていきたいと思っています。

### ④ Standardレベル受験者

自己啓発・自己研鑽と考えている方、将来に備えたい方、自身の職業や活動に活かすと答えた方が多かった。(5つのみ抜粋)

- デジタル推進委員となって、多くの人のサポートをしたい
- 現状では、自己研鑽の一環であり、具体的な予定はありません。作業療法士として活用の場が広がればよいと思っています。
- 福祉教育で、障害の理解を進めています。デジタルや e スポーツの活用で、障害者や高齢者の生活を豊かにすること、コミュニケーションを増やすことなど、活用していきたい。障害の有無にかかわらず、望むことに参加ができる社会をつくっていくことに貢献していきたい。
- 特別支援教育に外部専門家や研修会講師として関わっているので、個々のニーズに合わせた支援技術をアドバイスしたり提供したりできるようになりたいと思っています。まだまだこの分野でアドバイスのできる専門家が少ないので、最新の情報をキャッチアップしながら現場での経験や知見を積み重ねていければと思っています。また、地域における高齢者や障がい者のサポートなども協力できることがあれば行っていきたいです。
- 会社での web アクセシビリティの測定結果の信頼性を持たせるため。

※この設問へのすべての回答は Web サイトに「受験者の声」として掲載

[https://daa.ne.jp/examinee\\_voice](https://daa.ne.jp/examinee_voice)

## 7 総括

委員会の助言に基づき、人材育成のための各活動を企画・実施し、デジタルアクセシビリティへの呼称変更をおこなった。

受験者へのアンケートからもわかるように、開発した公式テキストやショートビデオを基に学習することで、デジタルアクセシビリティへの意識が変わり、何よりも障害を自分事として、社会モデルで捉えることができるようになっていくことがわかる。調査研究会で得られた知見と委員会として導き出した事業のポイントが良い効果を与えていることに大きな意義を感じる。

DAAとして認定された人たちはさらに、自分のフィールドで身近な人達にデジタルの活用を推進してくれると確信したい。このような人たちの輩出の積み重ねが、あらゆる物事をアクセシブルでユニバーサルなものへ転換していくことに繋がるのだと考える。

今後の課題としては、時流に合わせた教材の更新の継続と、一般社会・一般企業への拡大であろう。